

週報

こひつじ

第40巻 28号

大津キリスト教会

菊池郡大津町室 119

TEL 096-293-4470

FAX 096-293-4961

牧師 米村 英二

祝祭の人生を生きる

その所であなたがたは家族の者とともに、あなたがたの神、主の前で祝宴を張り、あなたがたの神、主が祝福してくださったあなたがたのすべての手のわざを喜び楽しみなさい。(申命記一二の七)

その一 喜び楽しみなさい

イスラエルの民は荒野の生活を二度も三度も命じられたのである。終え、いよいよ神が約束された地に入ろうとしていた。

そのとき神は、その新しい地でのない生活のように思われているやるべきことをいくつか命じられた。その一つがこれである。

「その所であなたがたは家族の者とともに、あなたがたの神、主のことで命じられたのだから。前で祝宴を張り、あなたがたの神、主のこともかかわらず、私は、自

分の過去を振り返ると、この「喜び楽しむ」ということがなかなかできなかつた。

つまり祝いの時を持ち、喜び楽しむ。長男が六歳、長女が三歳くらいしむようにと、神は一度ならず、のときだったように思う。

当時、教会は若者ばかりだった。窓は小さく、壁ばかりで、暗い。それを見て彼らはいっせいに言った。

「こんな部屋はいやだ」

「どうか、これで家族旅行をしてください。米村さんは、なかなかそういうことをしない人だから、あえて申します。お願いですから、それは生活費にまわさないで、子どもたちと楽しいときを過ごすために、ただそれだけのために使ってもらいたいのです」

私たちは彼らの厚意に甘えて宮崎旅行を計画した。

長いドライブをして、予約していたホテルに到着した。案内された三階の部屋は窓からの景観がすばらしかった。広い太平洋が目の前に見える。私は感動して立ちつくした。妻も子どもたちも喜んだ。しかし私はすぐに思った。少しだけいたくすぎはしないか。そこで言った。

「もっと安い部屋に移ろう」

彼らは、荷物をまとめ、もう一度背負って、しぶしぶついてきた。

案内されたのは一階の隅の部屋だ

「ぼくは、いいよ」

そう言っ、私は外のベンチでひとり本を読みながら彼らを待たした。

旅行の間中、すべてがこんな調子だった。妻は帰ってくると、すっかり疲れて、こう言った。

「あなたがいつしよだどちつとも楽しくない。もう二度と旅行などしたくないわ」

初めての家族旅行で、しかもそれは教会からの贈り物であったにもかかわらず、子どもたちとの貴重な時間を私はともに楽しんでやることができなかったのだ。

つくづく申しわけないことをし

たと後悔する。結局、それがわが家の一度きりの、そして最後の家族旅行となってしまった。

このように私は、今もきつとそれうなのだろうが、家族の中で一番、があなたに望んでおられることとです」(第一テサロニケ五の一六〇一八)(続)

「お父さんは、書齋でひとり本を読んでいた」

と言われたものだった。

私は、楽しむことが、何かいけないことのように長く思っていたのだろう。

ところが、神は、ここで、イスラエルの民に、喜び楽しむことを命じておられるのである。それも何度も繰り返しして。

喜び楽しむことは聖書全体の教えでもある。

だれよりもまずイエス自身が喜びの人であったではないか。イエスは言われた。

「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにある、あなたがたの喜びが満たされるためです」(ヨハネ一五の二一)

パウロもそうだった。彼は言った。いつも喜んでいなさい。・・・

今日の礼拝

○第一礼拝は午前10時から、第二礼拝は午前11時から。

○教会学校は午前10時から。

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

○司会は宮元隆博さん、奏楽は吉岡裕美さん。説教は坂田壮一さん

が哀歌三の二七の言葉「若い時に、くびきを負うのは良い」から語ってくださいました。

○来会者は西川大和君、大河君(シアトル在住)

先週の出席

○第一礼拝が四二名、第二が三

七名、合計七九名(男二八、女五一)、それに子どもが三名。合計八二名でした。

篠さんからの便り

いつも週報と、お祈りを感謝します。皆さんの祈りに支えられて

いることを実感しています。

私たちは今朝まで、オホーツク海に隣接しているサロマ湖の近くにいました。昼間の気温は二〇度と涼しいですが、夜は肌寒く感じます。今日は内陸部に入り、旭川

市の北にある和寒町で宿泊の予定です。そこから数キロ手前に、三浦綾子さんの『塩狩峠』で知られる塩狩峠があります。明後日は最北端の宗谷岬で宿泊の予定です。

この気温に慣れると熊本へは帰れなくなるのではと思います。

七月九日 篠 忠重

(篠夫妻は全国を車で旅行中)

特別礼拝の案内

八月十八日は特別礼拝です。

関西聖書学院の舎監をしておら

れる富浦信幸牧師家族、総勢八人が奈良の生駒市から来てくださいます。六人の子どもの年齢は、二歳から一歳。男子三人、女子三人です。

富浦牧師の説教のほか、奥様やお子さんたちの証、讚美などの奉仕があるかと思えます。じゅうぶんな時間を差し上げたいので、その日は、合同礼拝となります。したがって午前11時からの二部礼拝はありません。ぜひ午前10時から始まる礼拝においでください。

午後は、富浦牧師家族を囲んで、質疑応答の時間をもちます。六人のお子さんたちをどのように育てておられるのか。その教育方針なども伺いたいですね。ぜひご参加ください。

ちなみにお昼は軽食が準備されますが、まだまだコロナが完全に沈静化したわけではありませんので、なるべく互いの距離をおきながら食事をなさってください。また、心配な方は外で食事をして、それから午後の集まりに来てくださってもよいかもしれません。